

新聞記事を確実に読み取るための工夫や手立ての研究 ～社会科地理的分野の授業において～

指定校 2 年次 松本市立丸ノ内中学校 有賀 武

1 1年目の実践より

NIE 実践校に指定された昨年度、生徒がどのような形で日常的に新聞に触れられるのかを意識し、試行錯誤を繰り返しながら実践を続けてきた。実践を通して、以下のような成果や課題をみることができた。

- 新聞記事を利用することは、教科書にはない題材を考えることができる。
- 複数の新聞記事を利用することで、社会的事象を多面的多角的に考えることができる。
- 斜面の書き取りを行うことで文章表現力などの向上が見られた。
- 授業で新聞記事を扱うことについての生徒の反応は肯定的なものが多かった。
- 限られた時間の中で新聞記事を読み、学習活動に取り組む時間を確保する方法の開発。
- 低位層がより学習に取り組めるための学習問題・学習課題の設定、教材開発、板書計画の立案。
- 新聞を読むことや斜面の書き取りを行うことで身につく力が生徒に十分伝わらなかった。

今年度は1年目の実践を土台に新たな実践にも取り組み、その結果、更なる成果と課題が見えてきた。以下、その一部分を紹介する。

2 実践のねらい

① 社会への関心を高める

世の中の出来事に対して関心が低い人が増えている一方で、インターネットなどから自分の欲しい情報だけを集める傾向も見られる。手軽に必要なとしている情報を獲得する技能は必要だが、辞書や書籍、論文など活字に触れることで、いろいろな情報や知識を得ることも大切である。新聞を読むことを通して、生徒が世の中のいろいろな情報に触れることができる。そして、生徒の知識を広げることだけでなく、視野を広げ多角的多面的に物事を考えたり、捉えたりすることにもつながると仮定した。

② 活字離れの改善と語彙の獲得

読書の時間の減少や携帯電話やスマートフォンの普及などにより、生徒の活字離れが進んでいる。学校では朝読書の時間を設けているが、生徒は興味関心のある分野の本を多く読む傾向も見られる。新聞記事に触れることで、活字離れの改善につなげるとともに、社会への興味関心を高かめることにつなげていく。また、さまざまな語句に触れることで、生徒の語彙の獲得も期待したい。

3 研究の概要

① 新聞の1面（コピー）を廊下に掲示

昨年度から各学年の多目的ホールに新聞閲覧コーナーを設置して、生徒が自由に新聞を読めるようにしている。昼休みを中心に新聞に目を通す生徒の姿が見られるが、新聞の数に限りがあるため、新聞を読む生徒の数は多いとは言えない。ひとりでも多くの生徒に新聞を目にしてほしいと考え、2学期より新聞の1面記事の掲示を始めた（写真1）。1学年の廊下に掲示コーナー（新聞閲覧コーナーとは別の場所）を設け、朝刊3紙の一面のコピーを掲示した。

昼休みを中心に新聞記事のコピーを見る生徒が見られた。また、休み時間などに少しかだけ見るという生徒の姿もあった。また、「新聞の読み方を学ぶ」に関連付けて、11月半ばからは1面記事の見出しとリード文を蛍光ペンで囲んで掲示するようにした（写真2）。



写真1



写真2

② 新聞の読み方を学ぶ

社会科の授業の中で新聞記事を扱っている中で、記事を読むのに苦労している生徒の姿から「どのように新聞記事を読めばいいのかわからない生徒がいるのではないか」と思うようになった。そこで、新聞記事の読み方を紹介した資料を使いながら新聞記事の見出し・リード文に着目しながら読むことや気になる部分やわからない語句に線を引きながら記事を読むことなどを説明した。その後、実際に新聞の1面記事を使って、見出しとリード文をペンで囲む作業を行わせた(写真3)。一通りやってみて、「なるほど」という反応を示した生徒が多く、一定の効果はあったと考えられる。



写真3

3 実証授業

1 単元名 中部地方 一活発な産業を支える人々の暮らしー (全7時間)

2 単元設定の理由

中部地方は東海、中央高地、北陸と特色が異なる3つの地域に分けられるが、本単元では気候などの自然的条件や交通網などの社会的条件を活かしながら3つの地域で特色ある産業が発展しているようすを追究させたい。伝統産業については農家の副業から発達した北陸地方の伝統産業を扱うとともに、松本の伝統産業に関わる新聞記事も扱う。身近な松本の伝統産業を扱いながら、伝統産業を取り巻く課題や伝統産業に携わる人たちの思いに寄せながら学習に取り組む姿を期待している。

授業クラスの2年3組の生徒は知識理解の面でやや二極化の傾向がみられるが、社会的事象への関心は高く、教師の発問に対して予想を立てたり、自分の考えを持ったりすることができる生徒が多い。わからないことを少数で相談しながら考え合うことができたり、図やグラフから必要な情報を読み取ったりすることもでき始めている。一方で新聞記事などの文章資料については書かれていることをそのまま読み取ることはできるが、いろいろな視点や角度から資料を読もうとする姿はまだ定着してない生徒が多い。また、資料から読み取ったことを活用して自分の考えを書いたり、説明したりすることが苦手な生徒が多い。

このような生徒に対して、新聞記事や実物資料など具体的で生徒が興味を示しやすい資料・事例を提示しながら、中部地方の特徴をつかむための学習問題を解く過程で、自分の考えを深めたり、友の考えを聞いたりする活動も取り入れながら、中部地方の特徴を多面的・多角的に捉えて理解してほしいと願い、本単元を設定した。

3 単元目標

- A：中部地方の自然環境、人口、産業などの特色について概観する中で、農業や工業などの産業に関心を持ち、設定した追究テーマを基に地域的特色を意欲的に追究しようとしている。また、身近な伝統産業や農業にも関心が高まっている。(意欲・関心・態度)
- B：中部地方の地域的特色を、産業を中核とした考察を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。また、中部地方の産業の地域的な違いについて、地形や気候などの自然的条件と交通網や外国との関係などの社会的条件に着目してとらえている。(思考・判断・表現)
- C：中部地方の地域的特色に関する各種の地図や統計、写真、新聞記事などの資料から、中部地方の地域的特色について、有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取ったり図表などにまとめたりしている。(技能)
- D：中部地方について、自然環境や人口、産業などの特色を大まかにとらえている。また、中部地方について産業を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。(知識・理解)

4 単元展開

階	○学習内容・活動	◇教師の指導・支援 ◆評価	時間
1	○中部地方のようすを調べよう ・中部地方は産業の発達と気候や地理的条件には関連性があり、気候や地理的条件を生かして産業が発達している特色をつかむ。	◇資料の読み取りから、中部地方は産業の発達と気候や地理的条件には関連性があり、産業の発達に関係していることを理解させる。 ◆C	1
2	○中部地方の伝統産業について考えよう ・中部地方の伝統産業を取り巻く課題を学び、その対策に取り組む人の思いを予想する。	◇資料から伝統産業が消えつつある事実をつかませる。 ◆D ◇伝統産業の保存に携わろうとしている人たちがいる事実から、その思いを予想させる。 ◆A・B	1
	・伝統産業の保存に携わる人たちの気持ちを考える。	◇松本で行われている伝統産業の保存に関する資料(新聞記事)を参考に伝統産業の保存に携わる人の気持ちを考えさせる。 ◆A・B	(補) 1
	・中部地方で伝統産業の保存のために行われていることをまとめる。	◇資料から中部地方で伝統産業の保存のための取り組みをまとめさせる。 ◆B・C	1
	・東海地方の自動車工業のようすを調べる。	◇資料から名古屋周辺で自動車工業が発達した要因をまとめさせる。 ◆B・C	1
	・北陸地方の米作りのようすを調べる。	◇資料から北陸地方が日本有数の米どころになった要因をまとめさせる。 ◆B・C	1
3	○中部地方の学習をふり返ろう(まとめ) ・学習内容をふり返りながら、資料も参考にまとめてまとめる。	◇産業の視点から中部地方の特色をまとめさせる。 ◆B・D	1

5 本時案

(1) 主眼

中部地方に残る伝統産業の価値やよさについて学んだ生徒たちが、伝統産業が減少する中で伝統産業を残そうと活躍する人々の営みを学ぶ場面で、松本の伝統産業に関する新聞記事を活用し、取材を受けた人の話を聞く活動を通して、松本の伝統産業の保存に携わる人たちの思いを捉え、その思いを予想した視点以外の視点も取り入れて書くことができる。

(2) 本時の位置 全7時間扱い中第3時

前時：中部地方の伝統産業を取り巻く課題を学び、その対策に取り組む人の思いを予想する

次時：中部地方で伝統産業の保存のために行われていることをまとめる

(3) 指導上の留意点

- ・複数の新聞記事を使い、異なる視点から考えをまとめられるように促していく。
- ・資料から読み取ったことを整理しやすくするために、資料の項立てを行い読み取る視点を設ける。

(4) 展開

	学習活動	・予想される生徒の反応	○指導 評価	資料	時間
導入	1 前時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間は伝統産業がなくなりつつあるけど、保存のために頑張っている人もいることを学習したな。 ・最後に保存に携わる人たちの気持ちを予想した。 	○前時の学習内容を質問する。	伝統工芸品(実物や写真) 伝統的工芸品産業額の推移	3
	学習問題 伝統産業の保存に携わる人たちはどのような思いで取り組んでいるのだろうか				
展開	2 前時の予想を確認	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史あるものだから残したい。 ・多くの人に知ってほしい。 ・使ってもらいたい。 ・買ってもらいたい。 	○「どのような予想を書いたか発表してください」と発問し、生徒が前時に書いた予想を発言させる。	学習カード(予想を記入済)	3
	学習課題 自分の予想を深めるために資料を使ってまとめてみよう				
展開	3 資料を読み、伝統的なものを残す取り組み、それに携わる人たちの思いを読み取り、読み取ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・昔からの作り方を大事にしたい。 ・味を絶やしたくないんだ。 ・地方の大事な文化だから残したい。 ・作ったものだけでなく、作る技術も残したい思いがあることが分かった。 ・高価でも価値があるものを伝えたいのかな。 ・途絶えた技術を復活させることで松本を盛り上げたい思いがあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○松本で伝統産業の保存に取り組む人たちに関する資料(新聞記事)を読ませ、読み取ったことを学習カードに書かせる。 ○新聞記事の読み取りが苦手な生徒に対して、見る視点を与える、書かれているところに線を引かせるなどの支援を行う。 ○読み取ったことを発表させる。 	松本の伝統産業の保存に関する新聞記事 学習カード	22
	4 新橋屋あめ店の方のお話を聞く(ビデオ)	<ul style="list-style-type: none"> ・作っているあめのよさを1人でも多くの人に知ってほしいと思いつつながら取材を受けたんだな。 ・記事に対してあめ作りの伝統を残したい願いを持っていることが分かった。 	○「取材を受けた人がどのような気持ちで取材を受けたのか、記事に対してどのような思いがあるのかを聞いてみよう」と話した上で、新橋屋あめ店の方の話(ビデオ)を聞く。	新橋屋あめ店の方のお話(ビデオ)	5

	5 自分の考えをまとめる	・自分で調べたこととお話の内容をまとめながら書こう。	○「新聞記事やお話から、伝統産業に携わる人たちの思いをまとめよう」と指示。		10
終末	6 まとめたことを発表する	・途絶えてしまった伝統を復活させることも多くの人に知ってもらうための取り組みと同じように伝統あるものを将来に残す取り組みにならと思った。(A) ・江戸時代から続いている松本の伝統を多くの人に知ってもらうだけでなく、地域の大切な文化を残す考えもあることが分かった。(B)	○何名かに発表させる。	<p>評価 伝統産業の保存に携わる人たちの思いを書くことができたか。 (学習カードの記述内容から判断)</p> <p>A評価：自分が書いた予想以外の視点を加えて書き、さらに保存に携わる人の思いにも触れて書くことができた。</p> <p>B評価：自分が書いた予想以外の視点を加えて書くことができた。</p>	
	7 次時の学習内容の確認	・松本以外の中部地方では実際どのような取り組みをやっているのだろう。	○今日学習したことを土台に中部地方で伝統産業を保存するために実際に行われていることを調べよう。		

(5) 実証の観点

- ・新聞記事を読み取るために視点を与えたり、項立てを行ったりしたことは、資料の読み取りの助けとなり、読み取ったことの活用に役立ったか。(もし役に立ったなら、生徒が資料から読み取ったことを自分の考えに反映させる姿が見られる。)

※昨年度の授業から見えた課題のひとつに、生徒が新聞記事を読むのに精一杯で、記事から読み取ったことを活用できなかった姿が挙げられる。これは新聞記事のどの部分に着目して読めばいいのかが分からないまま記事を読んでいたことに原因があると考えた。そこで、生徒がどの点に着目して新聞記事を読めばいいのかを明確にするために、項立てを行い、記事を読むポイントを示した。

- ・松本の伝統産業に関する新聞記事を活用し、取材を受けた人の話を聞いたことは、生徒がさまざまな視点や角度から松本の伝統産業の保存に携わる人たちの思いを捉え、その思いを書くことに有効に働いたか。(もし有効なら、生徒が伝統産業の保存に携わる人たちの思いをいろいろな視点や角度から捉えて、自分の考えを書く姿が見られる。)

※伝統産業の保存について考える時、生産者の立場だけでなく、消費者(購入者)や行政、(伝統産業の保存を見守る)市民などいろいろな立場から考えることが必要である。今回は生徒の予想(生産者の立場から考えた予想が多かった)をもとに、詩文記事から伝統産業の保存に携わる人たちの思いをいろいろな立場から捉えて、記事から読み取ったことを使って自分の考えをまとめていくことを考えた。

6 授業の実際の様子 生徒の学習カードより

① A生の学習カードから

A生が書いた予想

自分の予想：
昔ながらのものを受け継がなければならないという思い
ニニで終わってしまったら受け継いできてくれた人の努力が
なくなってしまう。

A生は前時までの学習を通して、伝統産業の保存に携わる人たちの思いについて「引き継がなければならない」「受け継いで来てくれた人の努力がなくなってしまう」と作り手の立場に立って予想を書いた。

本時では3つの新聞記事をそれぞれ項立てした内容に沿って読んだ。松本市の伝統工芸品の伝承に関する記事では次のように読み取った。



・何について書かれた記事ですか
伝統工芸品を次世代につなげる

・どのような取り組みを行っていますか
- 伝統工芸品を残すため、後継者育成などをし、次世代につなげようという取り組み (市が実態調査)

・伝統工芸品に関わる人たちの思いや記事を読んで思ったことなどを書いてみよう
- 昔は、色々な人が毎年買っていてくれたが、今はあまり伝統工芸品を買ってくれなくて、悲しいと思った。
- 昔から使われていたものだからぜひ色々な人に使ってもらいたい。

・何について書かれた記事ですか
伝統工芸品を次世代につなげる

・どのような取り組みを行っていますか
- 伝統工芸品を残すため、後継者育成などをし、次世代につなげようという取り組み (市が実態調査)

・伝統工芸品に関わる人たちの思いや記事を読んで思ったことなどを書いてみよう
- 昔は、色々な人が毎年買っていてくれたが、今はあまり伝統工芸品を買ってくれなくて、悲しいと思った。
- 昔から使われていたものだからぜひ色々な人に使ってもらいたい。

授業の終末で、A生は新聞記事から読み取ったことや考えたこと、インタビューを聞いてメモしたことを使って「色々な人に買ってもらうたり知ってもらいたいと思ひ頑張っつなげている。いつまでも残していけたらな」と買い手のことや買うことによって伝統産業を広めていく視点も入れてまとめを書くことができた。

学習問題に対する自分の考えをこのスペースに書こう
伝統産業に携わる人たちは・・・
昔の先祖のみなさんが作ってくれたものを大事にし、
自分もそれをつなげ色々な人に買ってもらうたり
知ってもらいたいと思ひ頑張っつなげている。
いつまでも残していけたらなという願ひ。

② B生の学習カードから

予想

相次ぐ企業の減少に歯止めをかけようと必死でがんばっている。実際グラフを見ると減少を抑えているので、これからも続けていこうと思っている。

資料3

・何について書かれた記事ですか
みずず細工復活プロジェクト

・どのような取り組みを行っていますか
みずず細工を作った経験のない職人が、一から学んで作った
みずず細工を展示。
・みずず細工に関わる人たちの思いや
記事を読んで思ったことなどを書いてみよう
一時は途絶えたみずず細工を再びこのプロジェクト
で復活させたように、今からでも伝統品を
発展させることはできると感じた。
復活

資料3

・何について書かれた記事ですか
みずず細工復活プロジェクト

・どのような取り組みを行っていますか
みずず細工を作った経験のない職人が、一から学んで作った
みずず細工を展示。
・みずず細工に関わる人たちの思いや
記事を読んで思ったことなどを書いてみよう
一時は途絶えたみずず細工を再びこのプロジェクト
で復活させたように、今からでも伝統品を
発展させることはできると感じた。
復活



授業の終末に書いたもの

昔から受け継いだものを絶やしてはならない、またこういうものがある、と多くの人に知ってもらいたい、と思っている。

→シンポジウムを開いたり、新商品を開発したりして、何とか伝統を守ろうと活動している。

B生は「伝統産業を残さなければならない」視点から予想を書いた。本時ではA生と同様に3つの新聞記事それぞれについて項立てした内容に沿って読むことができた。しかし、授業の終末に書いたものは記事から読み取ったことが入っておらず、予想で書かれたものとほぼ同じで変容は見られなかった。これは、教師の机間巡視中の指導が不十分だったこと、新聞記事から読み取ったことをクラス全体で共有できず、読み取ったことを十分深められなかったことが原因と考える。

7 成果と課題

- 項立てを行って新聞記事を読ませたことについては、記事から何を読み取ればいいのかが明確となり、多くの生徒が新聞記事を読み取ることに繋がった。この点から項立ては有効であったと思われる。しかし、読み取ったことを活用して自分の考えを書けたかについては不十分な部分もあった。読み取ったことをどのように扱い、共有していくかが課題として残った。
- 生徒が住んでいる地域や学区の新聞記事を資料として扱ったことは、生徒が地元の伝統工芸に興味関心を持つことにつながった。(生徒が前時までに米あめを食べた、みずず細工や手まりを手取るなど実物に触れていたこともあるが、) 生徒が学習カードに記入した「自分も使ってみたい」などの内容からも生徒の興味関心が高まったと考えることができる。
- 新聞記事をきっかけとして、伝統産業の保存に携わり、新聞社の取材を受けられた方の生の声(ビデオ)を聞いたことは新聞記事だけでは分からないことの理解につながり、記事が書かれた背景などを深めることにもつながった。ビデオの利用の是非やビデオを流すタイミングについては検討の余地はあるが、新聞社の取材を受けた方から話を聞くことのよさを見いだすことができた。

- 新聞記事を読むのに時間を要してしまった。そのため記事を読むことはできても、読み取ったことを活用しきれず、深く考えることができなかった。時間不足の点と記事活用が不十分な点でもったいなかった。原因としては資料の数が多かったこと、教師側の教材研究不足（新聞記事の分析不足）、読み取った情報の共有が不十分であったことが考えられる。生徒が授業の中で調べたことや考えたことを活用して物事を考える場面を設けるために、生徒の実態を正確に把握し、生徒の活動に最も適した授業形態（個人追究・グループ学習・一斉授業など）も考慮して、1時間の授業構想を考えていくことが必要だと感じた。
- 伝統産業の保存に携わる人たちの思いを書く活動について、新聞記事から読み取ったことやビデオの内容を使って自分の考えを書く生徒の姿が見られた。しかし、携わる人たちの立場が明確になっておらず、いろいろな立場の人の思いが入り混じった形で書かれたものが多かった。原因としては生徒が新聞記事から読み取った情報を本時では確認するだけにとどまり、十分に活用できなかったことが挙げられる。読み取った情報を活用するためには、情報の確認に加えて、情報を分類したり、比較検討したり、共通点や相違点をみつけたりすることを通して情報を整理して活用しやすくすることが必要と考えた。

4 研究のまとめと残された課題

斜面の書き取りを継続して取り組み、授業の中で新聞を使っていく中で生徒たちは着実に新聞記事を読めるようになってきた。また、新聞の一面の掲示や記事の読み方を扱う取り組みにも一定の効果が見られた。このことは日々の授業の姿（例：資料を正確に読み取ることができるようになった）や斜面の書き取りのスピードが速くなったこと、斜面の書き取りノートのメモ欄に書かれていることが充実してきたことなどからも判断できる。

課題としては、授業の中で新聞を使うことが不定期なものとなっているので、できる限り定期的に扱うことが挙げられる。また、物事を考える力を伸ばすために、新聞記事から読み取ったことを活用して物事を考える場面を設けることが大切となる。引き続き実践を行う中で、課題を改善していくとともに、より有効な新聞の活用方法を見いだしたい。

松本市丸内中学校の2年3組は、社会科の単元「中部地方・活発な産業を支える人々の暮らし」で新聞記事を活用し、生徒たち松本地方の伝統産業を取り上げた記事を読み、携わる人の思いを学んだ。



伝統産業の保存に取り組む人の思いなどを新聞記事から読み取る生徒

記事から読み解く 地域の伝統産業

松本・丸内中2年3組の社会科

携わる人の思い実感

「みずす細工」などを取り上げた信濃毎日新聞の記事を配って内容を読み取った。記事を読む前に、伝統産業に関わる人の思いを生徒が予想して発表し、「自分たちの代で絶やしてはいけない」「素晴らしいと思うので、ぜひ読んでみたい」と意気込みを出した。2005年9月の記事は、松本市が伝統的な工芸品の原材料仕入れや販路といった実感を調査することを伝えている。作者が、買う人が減っているといった現状のほか、市が後継者を全国から募集することについても書かれている。

あしたはぐくむ

携わる人の思いに込められている。生徒たちは「伝統を守りたい」という思いがあるから」という意見が出た。13年7月の記事は、松本市新橋の老舗あめ店もち米から伝統の米あめを作る際に出るかすを食い、シリアルのように食べる「アメスグラノ」を開発したことを取り上げた。有賀教諭はあめ店に出掛けて、開発のアイデアを出し、記事にも登場する従業員にインタビューした。生徒たちは授業でその映像を見ながら、記事に対する理解を深めた。

最後に生徒が授業のまとめを発表。丸山剛さん（14）は「他の人からは見えにくいところでの苦労など、伝統を受け継いでいくという強い思いと責任を持って取り組んでいる」と感じた。「教科書では簡単にしか書かれていないけど、新聞記事を用いることで身近なところ引きつけて深く考えられる。生徒は携わる人の思いがますますわかりと読まれていたと話した。

ここがポイント

信毎NIEアドバイザーから

身近な話題で現実感持たせる

丸内中学校では、社会科の授業で新聞を積極的に使っています。新聞を使うことで生徒が社会に対する関心を深め、物事を諸資料に基づいて多面的・多角的に考える力や読み解く力を付けさせるためです。2年地理的分野での新聞の使い方が参考になります。

一つ目は、生徒に新聞記事の読み方を学ばせたことです。まず、新聞記事の見出し、リード（第1段落）、本文の関係を指導。次に、何についての記事か、どんな取り組みか、関わった人の思いや願いは何か—などをカードに書かせました。生徒は記事内容を容易に把握

できました。

二つ目は、生徒に松本地区の伝統産業に触れさせたいと、「新橋屋船店」、「みずす細工」、「お神酒の口」の記事を扱ったことです。松本地区の特色ある伝統産業の具体例の記事から読み取らせ、生徒に現実感を持って学ばせたのです。生徒は伝統の技が地元松本にあることに感動。新聞資料が生きていました。

三つ目は、有賀教諭が新橋屋船店へ出掛けて新聞記事を基に取材し直し、DVDで生徒に見せたことです。生徒は見慣れた店舗の中で語る仙波初代さんの商品へのこだわりや店を守ることに決意に触れ、地元の伝統産業に携わる人の思いを感じることができました。

（信濃毎日新聞NIEアドバイザー 江沢啓二）

実践授業を紹介した新聞記事

（信濃毎日新聞 2015年2月8日付）